展覧会ポスター

「具体美術協会と芦屋、その後」

会　　期：2025 年 7 月 5 日（土）－8 月 31 日（日）10:00－17:00（入館は 16:30 まで）
休 館 日：月曜日（休日の場合は翌平日）
（ただし、7 月 21 日（月・祝）、8 月 11 日（月・振休）は開館、
7 月 22 日（火）、8 月 12 日（火）は休館）
観 覧 料：一般 900（720）円、大高生 500（400）円、中学生以下無料
※（　）内は 20 名以上の団体料金
※ 高齢者（65 歳以上）および身体障がい者手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳を
お持ちの方とその介護者の方は各当日料金の半額
※7 月 12 日(土)は「ひょうごプレミアム芸術デー」のため観覧無料
会　　場：芦屋市立美術博物館
主　　催：芦屋市立美術博物館
後　　援：兵庫県、兵庫県教育委員会、公益財団法人兵庫県芸術文化協会、神戸新聞社、NHK 神戸放送局、
Kiss FM KOBE
展示協力：モトナガ資料研究室、岡本隆子（HEAR）、能美亮士

【展覧会概要】

本展では、1954 年に芦屋で結成された「具体美術協会」（具体）が 1972 年に解散するまでの 18 年間の活動を振り返り、なかでも 1970 年の日本万国博覧会（大阪万博）の参加に向けて準備を進めていた 60 年代後半からの「具体」の動向を紹介します。

また、1972 年と 1974 年に芦屋のルナ・ホールや滴翠美術館で開催された「芦屋川国際ビエンナーレ」、1973 年から 1975 年にルナ・ホールで開催された「ルナ・フェスティバル」を資料などから紹介し、芦屋の美術の時間を辿ります。

【展示構成】

第 1 部：具体美術協会　1954-1972

具体美術協会（具体）は、戦前より二科会や九室会などで活躍していた前衛画家の吉原治良（1905-1972）が中心となり 1954 年に芦屋で結成された、戦後日本美術を代表する美術家集団です。

1972 年に吉原が急逝したことで解散した「具体」は、吉原や会員たちが屋内のみならず、野外や舞台、空中までをも発表の場とし、多様な造形や絵画、立体作品などを通して先鋭的な表現を果敢に追求していきました。18 年間という長い期間にわたって活動してきた彼らの仕事の数々は、「具体」というグループだからこそ成し得た表現であったといえます。

第 1 部では、結成からフランスの美術評論家ミシェル・タピエと出会うまでの「初期」（1954～1957 年）、「アンフォルメル」の動向と併走していく「中期」（1957～1965 年）、テクノロジーと密接に結び付いた表現や、幾何学的抽象やハードエッジの作品など、当時の最先端の技術や傾向を取り入れる作家たちが入会し会員数が増大した「後期」（1965～1972 年）というように「具体」を 3 つの期間に分け、その一連の仕事を俯瞰し活動を辿ります。その中でも特に、1970 年の日本万国博覧会（大阪万博）の参加に向けて準備を進めていた 60 年代後半からの「具体」の動向に注目していきます。

1.　グタイピナコテカ集合写真 1965
写真提供:大阪中之島美術館

2.　日本万国博覧会「具体美術まつり」
フィナーレ 1970

3.　元永定正《作品》1962 年
油性合成樹脂塗料、綿布、板
＊グタイピナコテカ開設記念展
©モトナガ資料研究室

4. 嶋本昭三《作品》1963 年頃
塗料、布
©Shimamoto LAB Inc.

5. 松谷武判《作品･62》1962 年
樹脂系接着剤、合成樹脂系絵具、布
＊グタイピナコテカ個展 1963

6. 上前智祐《作品》1958 年
油彩、紙、コラージュ
＊新しい絵画世界展―アンフォルメルと具体

7. 白髪一雄《地進星出洞蛟》
1960 年　油彩、布

8. 山崎つる子《作品》1964 年
ビニール塗料、綿布、板
＊第 14 回具体美術展
©Estate of Tsuruko Yamazaki,
coutesy of LADS Gallery, Osaka

（ 3～8　芦屋市立美術博物館蔵）

第 2 部：「具体」が芦屋へもたらした、新しい息吹

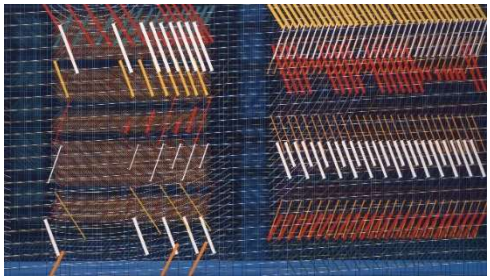
1970 年代の芦屋において、国際的なビエンナーレや芸術祭が開催されていたことはご存知でしょうか。

1972 年、芦屋のルナ・ホールで開催された「芦屋川国際ビエンナーレ」は、吉原に影響を受け若手作家の支援に尽力していた芦屋在住の真壁義昌の発案のもと、「具体」会員の松谷武判と未生流の肥原俊樹たちによって企画されました。1974 年に開催された第 2 回展は、19 カ国から 53 名の作家の作品が滴翠美術館で一堂に展覧された大規模な展覧会として特筆されます。さらに、ルナ・ホール開館 5 周年を記念して 1975 年に開催された「第 3 回ルナ・フェスティバル」は、ホールの設計を手がけた建築家の山崎泰孝を中心に芸術家たちによって企画されたもので、約 20 日間にわたりルナ・ホールや芦屋川のほとりで美術・詩・音楽・演劇などの展示やイヴェントが行われ、多くの注目を集めました。一方、芦屋在住の実業家・植野藤次郎によって創設された「ジャパンエンバ美術コンクール」は「具体」会員の吉田稔郎が運営に関わり、1978 年から 17 年間にわたり開催されました。第 2 部では、芦屋を発信地として文化・芸術の領域を拡げたこれらの動きとあわせ「具体」の登竜門として知られ現在も続く芦屋市展（1948－）を紹介し、「具体」が芦屋へもたらした影響とその革新性を考察します。

9. 第 1 回芦屋川国際ビエンナーレ 1972
撮影：堀尾貞治 ©松谷武判アーカイブス

10. 第 1 回エンバ賞美術展 1978 年
©吉田稔郎資料棚

11. 吉田稔郎《作品》1959 年
ミクストメディア、布　＊第 12 回芦屋市展



12. 菅野聖子《母音頌》 1974 年
アクリル、布　＊第 2 回芦屋川国際ビエンナーレ

（ 11.12　芦屋市立美術博物館蔵）

本展の特徴

1．　具体美術協会（具体：1954-1972）の全期の活動を所蔵作品だけで紹介できるのは当館だけ。

当館は、芦屋ゆかりの前衛美術集団である「具体」会員たちの作品を 1991 年の開館以前の準備時代より収集してきました。この作品群は、世界に誇る珠玉の「具体」コレクションとなっています。本展では、当館コレクションから「具体」会員 37 名の作品約 50 点によって 18 年間の「具体」の活動を紹介します。

2．　「具体」が芦屋へもたらした、新しい息吹

「具体」で活動していた作家たちは 1972 年の「具体」解散後も、精力的に制作を続け様々な展覧会で発表します。並行して、吉田稔郎や元永定正、松谷武判、今井祝雄らは 1970 年代にルナ・ホールや滴翠美術館など芦屋の各所で開催されたビエンナーレや芸術祭などの企画に関わり、最新の美術・芸術の動向を発信しました。第 2 部では、この度の調査で数多く発見された当時の資料から見えてきた、1970 年代の芦屋の美術の動きを作品と資料から辿ります。

3．　幻の記録音源を初公開

ルナ・ホール開館 5 周年を記念し、開催された「第 3 回ルナ・フェスティバル〈いま　芸術は･･･〉」(1975) に出演したタージ・マハル旅行団の演奏の音源や、元永定正のカーペインティングの記録音源を、記録写真とともに特別公開します。

展示協力：岡本隆子（HEAR)、能美亮士

4．　本展開催にあわせて「具体」作品をモチーフにしたグッズを製作

【出品作家】

東貞美、今井祝雄、上前智祐、浮田要三、大原紀美子、小野田實、金山明、菅野聖子、聴濤襄治、喜谷繁暉、木梨アイネ、坂本昌也、嶋本昭三、白髪一雄、白髪富士子、鷲見康夫、田井智、高崎元尚、田中敦子、田中竜児、坪内晃幸、名坂千吉郎、名坂有子、堀尾昭子、堀尾貞治、前川強、正延正俊、松谷武判、松田豊、向井修二、村上三郎、元永定正、山崎つる子、吉田稔郎、ヨシダミノル、吉原治良、吉原通雄　など

出品作品：約 50 点　＊資料等約 100 点　（予定）

【関連イベント】＊詳細は当館 HP へ

（1）講演会「『具体』とアメリカ抽象表現主義」

日　時：7 月 6 日（日）14:00－15:30
内　容：ジャクソン・ポロック、ウィレム・デ・クーニングらによる戦後アメリカの抽象表現主義芸術は、「具体美術協会」(具体) の初期の展開に大きな刺激を与えました。抽象表現主義研究者の立場から、1950 年代における具体と抽象表現主義の関係性についてご講演いただきます。
講　師：大島徹也（多摩美術大学芸術学科教授、多摩美術大学美術館館長）
会　場：講義室
定　員：80 名（どなたでも）
参加費：無料（ただし要観覧券)。申込不要、直接会場へ

（2）講演会「具体美術協会と 1970 年の大阪万博」

日　時：8 月 9 日（土）14:00－15:30

内　容：「具体」は日本万国博覧会（大阪万博）の開催にあたり、お祭り広場での「具体美術まつり」や「夜のイベント」、みどり館エントランスホールでの作品展示、共同制作作品《ガーデン・オン・ガーデン》など、さまざまな催しに携わっている。「具体」が大阪万博に関わるようになった経緯やそこでの活動を紹介し、その意義についてお話いただきます。

講　師：加藤瑞穂（美術史家）

会　場：講義室

定　員：80 名（どなたでも）

参加費：無料（ただし要観覧券）。申込不要、直接会場へ

（3）講座「1970 年代の芦屋の芸術－芦屋川国際ビエンナーレ、ルナ・フェスティバルなど」

日　時：8 月 17 日（日）14:00－15:30

内　容：芦屋において文化・芸術の領域を拡げた「芦屋川国際ビエンナーレ」「第 3 回ルナ・フェスティバル」といった動きとあわせ、芦屋在住の実業家・植野藤次郎の理念のもとに創設された「ジャパンエンバ美術コンクール」（1978-1994）や「具体」の登竜門として知られ現在も続く芦屋市展を紹介し、「具体」が芦屋へもたらした影響とその革新性についてお話しします。

講　師：大槻晃実（本展担当学芸員）

会　場：講義室

定　員：80 名

参加費：無料（ただし要観覧券）。申込不要、直接会場へ

（4）ワークショップ「元永定正さんの“流し”の絵画を体験しよう」

日　時：7 月 26 日（土）13:00－16:00

内　容：本展出品作品の元永定正《作品》（1962 年）は、水平に置いたカンヴァスに絵具を流してできた、絵具による“水たまり”をイメージとして作品にしたものです。この元永独自の技法による作品を鑑賞した後、作者の意図と偶然性が同居する画面作りを体験していただきます。

講　師：川原百合恵（当館学芸員）

会　場：体験学習室

対　象：20 名、小学生以上　＊要事前申込

参加費：500 円、要観覧券

ご希望の方は、7 月 15 日（火）までに芦屋市立美術博物館宛

メール（ashiya-bihaku@shopro.co.jp）もしくはお電話（0797-38-5432）にて

お名前・年齢・ご住所・ご連絡先（電話・メールアドレス）を添えてお申し込みください。

応募者多数の場合は抽選。

（5）学芸員によるギャラリートーク

日　時：7 月 12 日（土）、8 月 3 日（日）

いずれも 14:00 から　1 時間程度

会　場：展示室

参加費：無料（ただし要観覧券）。申込不要、直接会場へ

（6）ボランティアスタッフによる鑑賞サポート

日　時：会期中毎水曜日

いずれも 13:00 から 16:00（当日変更になる可能性あり）

会　場：展示室

参加費：無料（ただし要観覧券）。申込不要、直接会場へ

●お問い合わせ

芦屋市立美術博物館
〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町 12-25 FAX：0797-38-5434
企画内容に関して／担当学芸員　大槻晃実　TEL：0797-23-2666（学芸直通）
画像貸出等、広報について／総務課 乾紀子 TEL：0797-38-5432（代表）
◇ホームページ：https://ashiya-museum.jp
◇Facebook：芦屋市立美術博物館　◇X：@ashiyabihaku　◇Instagram:ashiyacitymuseum

●アクセス

①住所　芦屋市立美術博物館　〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町 12-25　TEL 0797-38-5432
②アクセス
・徒歩：阪神電車芦屋駅から南東へ徒歩約 15 分
・阪急バス：阪神芦屋駅・JR 芦屋駅・阪急芦屋川駅から乗車、「緑町」停留所下車、徒歩 3 分
　のりば ◇阪神芦屋駅　①(南向き)のりばより系統 1「新浜町」行き
　◇JR 芦屋駅　南口のりばより系統 8「芦屋浜営業所前」行き、
　または北側⑤のりばより系統 1「新浜町」行き
　◇阪急芦屋川駅　①のりば　系統 1「新浜町」行き
　※所要時間などの詳細は阪急バス時刻表でご確認ください。
・併設駐車場：1 時間無料

以　上

芦屋市立美術博物館　画像借用申込用紙

連 絡 先
E-mail: info@ashiya-city-museum.jp
FAX（０７９７）３８－５４３４

ご希望の画像番号に〇をつけてご返送をお願いいたします。本展をご掲載いただける場合、
読者・視聴者プレゼント用招待券(5 組 10 名様まで)もご用意しておりますので、お気軽にご連絡ください。

番号	作者・作品名・制作年・素材、所蔵先等
1	グタイピナコテカ集合写真 1965 写真提供:大阪中之島美術館
2	日本万国博覧会「具体美術まつり」フィナーレ 1970
3	元永定正《作品》1962 年 油性合成樹脂塗料、綿布、板 芦屋市立美術博物館蔵 ©モトナガ資料研究室
4	嶋本昭三《作品》1963 年頃 塗料、布 芦屋市立美術博物館蔵 ©Shimamoto LAB Inc.
5	松谷武判《作品・62》1962 年 樹脂系接着剤、合成樹脂系絵具、布 芦屋市立美術博物館蔵
6	上前智祐《作品》1958 年 油彩、紙、コラージュ 芦屋市立美術博物館蔵
7	白髪一雄《地進星出洞蛟》 1960 年 油彩、布 芦屋市立美術博物館蔵
8	山崎つる子《作品》1964 年 ビニール塗料、綿布、板 芦屋市立美術博物館蔵 ©Estate of Tsuruko Yamazaki, coutesy of LADS Gallery, Osaka
9	第 1 回芦屋川国際ビエンナーレ 1972 撮影:堀尾貞治 ©松谷武判アーカイブス
10	第 1 回エンバ賞美術展 1978 年 ©吉田稔郎資料棚
11	吉田稔郎《作品》1959 年 ミクストメディア、布 芦屋市立美術博物館蔵
12	菅野聖子《母音頌》 1974 年 アクリル、布 芦屋市立美術博物館蔵

その他、画像をご希望の場合は、問い合わせください。

貴社名	
媒体名	（新聞 ・ 雑誌 ・ ミニコミ ・ TV ・ ラジオ ・ その他 ）
ご担当者名	
ご住所	〒
電話番号	TEL FAX
メールアドレス	@
URL	
掲載・放送予定日	
写真到着希望日	
招待券希望枚数	組 名分希望

本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体(VTR/DVD)などを当館までお送りくださいますようお願い申し上げます。取材・撮影希望の場合は事前にご連絡ください。

[広報用画像の使用について]

※画像データの使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。※広報用画像の掲載の際は、各画像のキャプションとクレジットを明記してください。※トリミングはご遠慮ください。作品が切れたり、キャプション等の文字が画像にかぶらないよう レイアウトにご配慮ください。※上記以外でご希望の画像がございましたら、お問い合わせください。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。